

学校だより

学校教育目標

「心身ともに健康で、温かい思いやりの心もち、自ら学び自ら考える児童の育成」

平成29年度 学校通信 学力特集号

(平成29年12月5日)

北九州市立穴生小学校

校長 金子 二康



あのお



平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

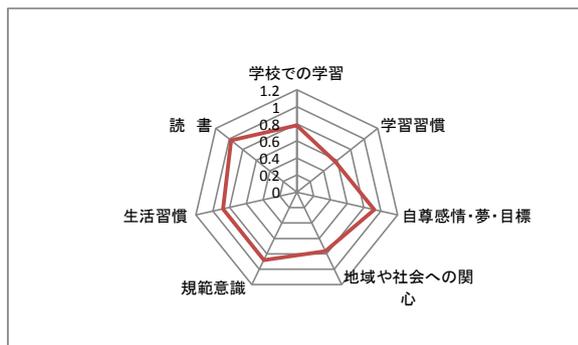
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には全国平均正答率とほぼ同程度であったが、下回っている領域もある。 ・手紙の書き方については、課題がある。ローマ字の書き方と同様、定期的に課題として取り組む必要がある。	下回っている。
国語B	・記述式の問題だと正答率が下がる傾向がある。記述する、整理して考えるという面で課題がある。 ・物語から理由をもとに自分の考えをまとめるという面でも課題があった。	下回っている。
算数A	・数と計算については、全国平均を上回っていた。量と測定、図形についての得点率が低い。	下回っている。
算数B	・一部全国平均正答率を上回っている問題もあるが、多くの問題で無解答率が多かった。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



・将来の夢をしっかりと持てている子どもの割合は、全国平均と同程度である。短期、中期、長期に渡る目標設定を行い、具体的な行動に結び付けさせていく。
・読書週間については、読書を好きな子どもの割合は、引き続き高い水準を保っている。
・自分で課題を立てる学習を深めていくような学習活動の割合が低い。引き続き、わかる授業づくりの取り組みを進めていく必要がある。
・家庭での学習習慣の定着に向け、計画的に家庭学習を進めていくための働きかけが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・将来の夢をしっかりと持てている子どもの割合は、全国平均と同程度である。短期、中期、長期に渡る目標設定を行い、具体的な行動に結び付けさせていく。
・読書週間については、読書を好きな子どもの割合は、引き続き高い水準を保っている。今後も読書活動の充実を図っていく。
・自分で課題を立てる学習を深めていくような学習活動の割合が低い。引き続き、わかる授業づくりの取り組みを進めていく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・毎日の宿題だけでなく、自分で計画を立てて家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる必要がある。また生活習慣を含めて規則正しい家庭生活を送ることができるよう、あらゆる機会を通じて家庭への協力を求め、学校と家庭を連携していく。